

地球環境問題や政府債務の破綻の危機など人間社会の持続性の問題は、考えるべき時間軸が長い。市場の時間感覚では考えにくい。これらは世代間の問題として捉える必要がある。今回は経済理論で世代間の問題を扱うにあたっての2つの論点、時間不整合の問題と世代間の利他性について整理する。

世代間の問題が抱えている困難の一つは、「若いときの約束が年を取ってから守られない」という時間不整合性の問題がさげられないことである。しかし、各世代で繰り返される世代間問題の場合は、「繰り返しゲーム」の構造を使うことで解決できることが知られている。

典型的な繰り返し構造を持つ世代間問題は、「成人した子供が老親を扶養するか」という問題である。子供にとって自分の親を扶養するのはコストがかかるので利己的な人間は自分の親を扶養したくないが、自分が年を取ったときには子供に扶養してもらいたい。社会制度の工夫がない自然状態では、若い世代は誰も

世代超えた問題 どう解決?

ポイント

- 老親扶養問題などは世代間の默契で回避
- 環境など1回限りの問題は利他性力ギに
- 将来への想像力が利他性の大きさを左右

貨幣を、老年期に扶養してもらう対価として子世代に支払う。子世代はその貨幣を受け取って、自分が年取ったときの扶養の対価を支払う。貨幣が前の世代から次の世代へと受け渡されることで、老親扶養が確実に実行される(図参照)。現代社会は実際にそのような仕組みになっている。

エコノミクス トレンド

小林慶一郎
慶大教授

「約束」を老年期に破らないうという社会契約である。社会契約には価値Qがあり、老人は約束を守ると若い世代から対価Qを払ってもらえる。約束を破ると社会契約は消滅し、価値Qも失われるので、老人は約束を破らないのである。これが各世代で続く。

これらの利己的個人からなる世代重複モデルでは、世代間の繰り返しゲームは解けるが、1回限りの問題は解けない。過去に起こったことのない

は、あたかも永久に生きる人間の行動と同じになる。すると、財政政策や政府債務の蓄積はその国の経済にまったく影響を与えない、という中立性命題が成立する。つまり現在、政府が借金を増やし続けても、それは将来世代の時代に増税して返済される

の2003年の論文では、経済成長によって親の子に対する利他性が大きく変化することが示されている。産業革命前の欧州のような富の蓄積が進んでいない経済では、世代間の利他性は低く、利他性が内生的に育まれることもない。経済成長が進んである程度の富の蓄積量に達すると、人々は自己の利他性を高める行動を選択し、結果として国全体での利他性のレベルが大きく上がる。子孫への利他性が上がることによって、資本蓄積がさらに加速し、経済成長が高まる。

利他性を育む政策重要に

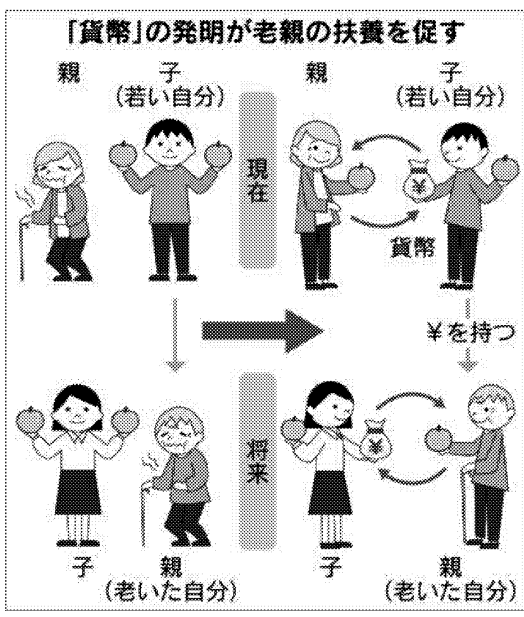
とを、米ボストン大学のローレンス・コトリコフ教授と、スウェーデンの経済学者トーステン・パーソン氏とラース

環境危機や財政破綻のような問題は1回限りの世代間問題なので、世代間の默契では回避できない。

1回限りの問題を解くには、世代間利他性(人々が子孫に抱く愛情)を経済モデルで考慮する必要がある。世代間利他性があると、現代の効用に次世代の効用が入り、次世代の効用にさらに次の世代の効用が入る、という無限の連鎖が続くので、経済モデルは永久に生き続ける家系から構成される無限期間モデルと同等になる。個人は有限期間しか生きなくても、利他性があるので、子孫のことを考えて行動する個人の経済行動

彼らの議論は、成人した人々が自分の利他性を自分で選択するという設定だった。現実の世界を考えると、親や教師という大人が子供を教育することで、子供の利他性を大人が決めた類型にはめる、という方が普通だろう。

大人の教育が子供の嗜好を変えるというモデルは家族の経済学などに多くみられる。米ノースウェスタン大学のマシナス・デブケ教授と米エール大学のファブリツィオ・ジリボッティ教授の17年の論文は、「権威主義」「寛大」などの子育てのスタイルが子供たちの嗜好に影響し、経済格差が大きい国では権威主義の親が多く、格差が小さい国では寛容な親が多くなることを示した。



「貨幣」の発明が老親の扶養を促す

世代間利他性が当人の行動(教育、子育てなど)によって決まるといって「内生的な利他性」の問題を考えたのが、米シカゴ大学のケーシー・マリガン教授の97年の本である。マリガン教授の関心は家族間の経済格差の広がりを説明することだったが、彼の理論を経済成長論に応用した仏パリ経済学校のヒレル・ラポポート教授と欧州中央銀行のジャンピエール・ヴィタル氏

ただ、彼らの研究では、子供の世代間利他性の変化については分析されていない。親が子供の世代間利他性を決める

「一回限りの世代間問題を解決するために、利他性を内生的に育てる政策は重要である。将来、環境や財政の危機で大きなコストが予想される時、危機に対処するための資源を子孫にどれだけ残すかは、利他性の大きさに決まり、その利他性は将来への想像力で決まるのである。」

4人の筆者が交代で執筆、原則、月1回掲載します。